

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1271400184
法人名	スマイルケア有限会社
事業所名	グループホームスマイル
所在地	〒287-0003 千葉県佐原市佐原イ1689番地2 (電話) 0478-55-8655

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(19年11月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	17 人	常勤 8人, 非常勤9人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 ~ 35,000円	その他	食27,000+水光熱20,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石井内科医院 平山歯科医院 県立佐原病院 佐原中央病院
---------	-----------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR佐原駅から徒歩20分、小江戸と呼ばれる古い街並みの一角に位置している。法人代表はかつて大規模な高齢者施設を立ち上げた経験があり、認知症高齢者一人一人がより自由に過ごせる場所をと考え、平成12年、同地にグループホームを設立した。周辺の香取地区は高齢者が多く、問合せや見学が相次いだとのこと。寮を改修した建物にはデイサービスが併設されており、賑やかな雰囲気も溢れている。建物の作りが直線的なので見守りやすい反面、やや手狭という難もある。しかしながら入居者は職員とともにとても楽しそうに過ごされており、「ゆっくり一緒に楽しむ」という理念が具現化されているのを感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	共用空間の家庭的な温かみは、リビングについては装飾等で工夫しているが、居室の並ぶ廊下はややがらんとしている。居室の目印となる名札も貼ったが、剥がしてしまう入居者に配慮して、かなり高い位置に設置している。トイレがカーテンで仕切られている点については、予備のカーテンを用意し、不衛生にならないようにした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が中心となって作成しており、すべての職員が関わっているわけではない。自己評価の内容を職員は把握していない。昨年の自己評価や評価結果は目にしていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	香取市介護保険課・民生委員・香取地区長・行政協力委員・幼稚園園長・入居者および家族、グループホーム職員らで半年に1回、開催している。内容は、ホーム見学や職員の定着率の報告、ホーム広報誌「スマイル」の配布など。併せて回覧板を回してもらうようお願いしたり、地域の祭りや清掃に参加する旨を伝えた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情・相談窓口は説明文書に明示してあるほか、面会時等に家族から話を伺っている。ホームの行事に関しては要望のヒアリングや満足度調査を行ったこともある。家族側から出た意見は、サービスに活かせるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは下新町地区に位置しているが、上新町地区との境にあるため、どちらの地区ともお付き合いがある。地域のボランティアが踊りに来てくれたり、民生委員が訪ねてきてくれる。佐原の祭りの際は、山車がホームの前を通ってくる。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「ゆっくり 一緒に 楽しく」がホームの理念である。入居者の一人一人のペースに併せ、職員は一緒に楽しく生活できるよう心掛けている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は会議の際などに話しているとのことだが、とっさにホームの理念が出てこない職員もいる。		全職員で理念を共有することが大切と思われる。
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、地域の清掃や祭りなどに参加している。民生委員やボランティアがホームを訪ねてくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成は管理者のみで行っており、職員は把握していない。昨年の自己評価や外部評価は職員も目にはしている。		自己評価作成は、日ごろの自らのケアを振り返るよい機会であるので、全職員参加で行うことが必要と思われる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、主としてホームの見学や紹介、地域の活動や行事への参加願いをしている。次回はクリスマス会について話し合う予定であり、地域の方々にも参加してもらえればと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課・障害福祉課・福祉事務所とは常日頃から連絡を取り合っている。また市の要請で、香取市グループホーム連絡会を、グループホームあんじん、スマイルらで立ち上げた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理状況については毎月報告している。また広報誌スマイルを定期的に家族に送るほか、行事の際の写真などを送付して、日常生活の様子を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は説明文書に明示されている。面会時などに随時ご意見を伺っている。主として意見・相談があるのは新規に入居した家族からで、ある程度年月が経つとあまりご意見は聞かれなくなる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率を上げるために努力している。事業所表彰制度を設置し、4ヶ月に一度、業務でがんばった職員に報奨金を出すようにするなど、工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特別養護老人ホーム「じょうもんの郷」が事務局となっている認知症介護の勉強会や、千葉県グループホーム連絡会第4ブロックの研修会などに参加している。しかしながら参加は管理者が主である。		新任・現任職員を育成していくため、年間を通じての計画的な研修計画を立てるとさらによいと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会・香取市グループホーム連絡会に参加し、意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームを見学してもらい、お茶を飲みながら中の雰囲気体験してもらっている。入居後、どうしても家に帰りたくなくなってしまった入居者には、職員が付き添って家を見に行ったり、ご本人が納得行くまで外を歩かせていただいている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日楽しく過ごしていただくことを大切に、職員は入居者とともに生活を営んでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>朝起きたらバイタルチェックをしながら顔色や気分を調べ、会話の中から希望や意向を汲み取り、安全面、衛生面、ローテーションなどを勘案し、できるだけ希望に添えるよう支援している。得られた情報は、個人記録やカンファレンスで職員は共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、生活を共にしている職員が意見を出して作成している。ケアマネジャーの役割がやや不明確であり、アセスメントシートや介護計画書のファイリングもわかりづらかった。</p>		<p>介護計画作成の主体はケアマネジャーであり、職員の意見を取り入れながら専門職として自らプランを作成し、関係者がいつでも見られるような形で事務所に整備保管することが求められる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>急変があれば都度ケアの見直しをして個人記録に記入しているが、見直しの時期は人によってばらつきが有り定期的な見直しには至っていない。</p>		<p>例え、入居者の状態に変化がみられなくても、短期・長期目標を定期的に見直しすることが大切と思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと併設であるため、レクリエーションや行事の際に連携を図っている。ホームで急に人手が必要になったとき、デイに応援を頼むこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している協力医の他、疾患によっては本人、ご家族の希望でかかりつけ医に受診できるよう幅広く支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者が準看護師で、医療連携体制加算の指定を受けている。ターミナルまでお世話するため、看取りに関する指針を作成し、ご家族や関係者と方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の文章に、やや入居者の尊厳に対する配慮が足りないように見受けられる。		入居者・家族の求めに応じてサービス提供記録を開示する旨を契約書等に謳うとともに、親族が見ても不快に感じない記録文の書き方が求められる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のバイタルチェックや見守りの中で、その日の入居者の様子を把握し、決して急がず、ゆっくり、一緒に、楽しく過ごせるよう、一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所仕事ができる人は準備や片付けを手伝っている。介助を必要とする入居者には、職員が寄り添ってサポートしたり、会話をに入れて楽しく一緒に同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができる。1階の風呂は併設のデイと共用なので、入居者は午後からの入浴となる。2階は一日中利用可能。入るタイミングは、声かけで様子を見ながら誘導している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に合わせた役割を担っていただき、掃除、洗濯、台所、縫い物、クリスマスの飾りなど、職員の温かい見守りの中で、自分の仕事として喜んで参加していただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーや公園に出かける際、何を着ていこうか、楽しみにしている入居者もいる。天気が良ければほとんど毎日、散歩、買い物などに職員と出かける入居者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口がデイサービスと共通で、グループホームはデイサービスを通して入る構造になっており、時間帯によってはデイサービスとの境に鍵をかける時もあるが、終日ではない。		デイサービスとグループホームは出入り口を分けて鍵をかけないケアに取り組むよう、今後も更に検討を要する課題と思われる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。マニュアルも用意され、避難所も指定されている。職員は消火器の扱いが出来、役割分担もされている。推進会議の場で近隣住民への協力を要請している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養のバランスに留意している。入居者はみな薄味で、煮物が好きである。糖尿病の人にはドクターの指示に従ったメニューを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調査時は12月で寒い時期だったが、リビングは暖かく保たれていた。しかし、居室の並ぶ長い廊下に出ると途端に寒さが押し寄せてきた。		リビングから廊下に出た瞬間、体感温度に大きな差が出てくる。廊下に寒暖計を置き、あまり温度差がでないようにすると、入居者の健康によりよいと思われる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースが狭くて一人になれる場所がないので、自室に帰りテレビを見たり、縫い物をして過ごす人もいる。居室は入居者によって様々で、安全と衛生に配慮されている。		